

## 「東南アジアエネルギーアウトック2015」の概要

※東南アジア=ASEAN10カ国

### 1. 東南アジアでは2040年に向けてエネルギー需要が増大

東南アジアのエネルギー需要は2040年には80%増加。特に、その電力需要はほぼ3倍に増加。

### 2. 電力需要も増大。特に石炭火力のシェアがトップに。高効率化が急務

(1) 電力需要は2040年に3倍に増大。電力源は、その豊富さと入手容易性により、石炭の比重が増し、2040年には石炭がガスを抜いてシェア最大に。石炭火力発電の効率は、2040年まで平均で5%向上するも、非高率な亜臨界圧石炭火力発電が2040年においても50%を占める。環境汚染とCO<sub>2</sub>削減のため、より高効率の技術の導入促進が必要。

(2) 国際金融機関による石炭火力への融資制限は、発達した金融市場を持つ中国と、そうでない東南アジアの国々においては事情が異なる。中国の銀行等が東南アジアにおける石炭プロジェクトの資金源の役割をますます果たすようになってきている。

### 3. 需要増に対応して、東南アジアの燃料輸入は増大。

2040年には、東南アジア全体として、石炭を除き、石油、ガスの純輸入地域に転落。石油輸入は倍増し、現在の中国の輸入と同レベルに。

### 4. 東南アジアのエネルギーシステムの将来を形作る4つの鍵

①エネルギー投資の確保、②電力網の広域連携、③エネルギーアクセスの拡大、④化石燃料補助金の削減の4つが東南アジアのエネルギーシステムの将来を形作る4つの鍵。